

平成22年度SPOD事業評価委員会からの指摘事項に対する対応策について（案）

【すぐに検討が必要な課題】

事項	対応策	評価委員からの意見
FDer、SDC、SD講師の養成	平成23年度から、加盟校が主催する研修にコア校のFD・SDの講師を派遣する事業を実施する。	【FD・SD共通】 コア校をはじめとして、各大学が対等な立場・責任で、FD・SDの企画・実施を行えるような仕組みを検討する必要がある。
	拠点の活動の一環として、SPOD外において、FDerを養成するため研修を実施する(2011年11月に東京で開催予定)。	【FD】 各研修プログラムの講師について若手の人材育成はまだ十分とは言えない。SPOD内でのFDer人材の育成だけではなく、SPOD外をも含めた人材の開拓に力点を置くべきかもしれない。
	SPODでの研修生受け入れ制度に加えて、全国教職員能力開発拠点としての研修生受け入れ制度を作る。	
	FD・SD担当者を対象とした、職場内能力開発の基本的な知識、意義を学ぶための研修を実施する(SPODフォーラム2011において、「職場内人材育成の基本:人を育てる組織づくり」を開講予定)。	【FD・SD共通】 コア校以外の大学がフリーライダーにならないようにするための制度設計が必要。
		【FD・SD共通】 SPOD事業への教職員の参加を促すために、FD・SDのための各加盟校の職能開発の考え方や環境作りを支援する方策を検討する。
		【SD】 能力向上は何のためなのか。この点を、各大学の人事政策担当の理事・職員、SDプログラムの開発・実施に関わる教職員などが明確に自覚することが、SD受講に対する動機を高めるうえで必要ではないか。
SPOD事業の取組成果の情報発信	SDプログラムの内製化を行い、講師養成研修受講者が学務系職員養成研修の講師となって研修を実施する。	【SD】 SDプログラムの開発に予算の多くがつかぎ込まれており、早期に効果を示すことが求められている。プログラムの内製化を早急に実現し、低予算での事業継続を実現して欲しい。
		【SD】 「学務系職員養成プログラム」の講師育成を急ぎ、大学特有の業務領域における人材養成のあり方を検証
SPOD事業の取組成果の情報発信	SPODフォーラム等の大きなイベント開催時には、SPODの取組をマスコミ等に積極的に発信する。	【組織運営等】 四国内の各県の新聞やテレビ等のマスコミを積極的に活用して、四国内での認知度を上げられてはどうか。
教員の資格化について	日本高等教育開発協会と連携し、高等教育教授資格の開発を進める。	【FD】 英国PGCHEプログラムに比肩しうる日本版プログラム(SPOD四国モデル)の完成に期待

事項	対応策	評価委員からの意見
多様なニーズに応じた 研修プログラムの開発	現状の汎用的内容のプログラム実施を継続するが、医療系ならびに高専系については、専門分野別プログラム開発に取り組む体制づくりを行う(SPODフォーラム2011において両プログラムを開講予定)。 その他の専門分野別プログラム開発については、SPOD加盟校FDニーズアンケート調査結果を参考に、ニーズの高い分野から検討を行う。	【FD】 医歯薬系が充実しその分野で伝統のある徳島大で医歯薬系のプレFDが発展すれば、SPODの特色となり魅力となるのかもしれませんが。
		【FD】 分野別・学体系別のFDプログラムの開発は未知数であり、現時点で評価を下すのは難しい。今後の進展が期待される。
	トップリーダーや各種プログラムで実施したアンケートを活用し、今後のプログラム改善につなげていく。	【SD】 トップリーダー養成について、加盟校の意見を聴取しながら、実情に合わせた位置付けや仕組みを検討する。
		【SD】 トップリーダー(アカデミックリーダー)に関するプログラムについて、実施上の困難があった。今後、これまでとは異なるアプローチの仕方を検討しなければならない。
		【SD】 職員組織のマネジメント能力に加えて、大学を動かすための対教員マネジメント・スキルを焦点にしたプログラム開発と改善が待たれる。
補助金終了後の 運営方法の構築	事業の継続を目指して、加盟校が負担金を拠出する仕組み作りを行う。	【FD】 SPODフォーラムや各コア校で実施されるFDプログラムへの、加盟校教員の参加がまだ少ないように思われる。フォーラム等への参加が容易になるような仕組みづくりができるよう加盟校に働きかけていくことも、FDの環境作りという点で必要ではないか。
		【組織運営等】 小さな財政で制度設計を組み直す必要がある。
ネットワークにおける 情報共有による連携強化	加盟校間の交流を活発にするため、各コア校を中心に県内加盟校会議等の実施を促す。	【組織運営等】 SPODの一体感に比べて、県内加盟校との交流が十分に図れなかった点があり、自戒もこめて今後の課題である。
		【FD】 加盟校のFD担当者との情報交換の機会が少なかった。フォーラム等で担当者交流を図る努力はしてきたが、十分な時間がとれなかったように思われる。フォーラムで1コマをこれにあてる、といった新たな試みも必要かと思われる。
	SPODフォーラム2011において、加盟校の担当者が少人数によるグループディスカッションを通じた情報交換ができる機会(ラウンドテーブル)を設ける。	【SD】 職員のキャリアデザインに関する基本的な考え方について、加盟校間で情報交換する機会が必要かと思われる。
		【組織運営等】 ネットワーク内のミニ・ネットワークの組織化も含め、温度差を解消する積極的なアプローチが必要になるかもしれません。

【長期的に検討すべき課題】

評価委員からの意見	理 由
【SD】 各コア校がある分野ではリーダーシップを発揮できるようなかたちにしていかなければならない。	各コア校がリーダーシップを発揮していくことが、持続的な運営のためには不可欠である。しかしながらそれを実現するには、人的措置など実施体制の整備が不可欠であるため、事業の整理・見直しの検討を含め解決には時間を要する。
【組織運営等】 地域の自治体・行政組織とも連携を深め、活動継続の支援要請を積極的に展開してはどうか。	
【組織運営等】 SPODによる地域の発展・活性化のためには、県知事や市町村長を巻き込んでいく必要があり、そうすることによって、SPODの地域の認知度や評価は上がっていき、小・中・高等学校を巻き込んだ教育力の向上に寄与することができるのではないかと。	SPODの今後の持続的な運営を考えた場合、自治体等との連携・支援を得ることは有用である。それを得るための方策としては、自治体職員や公立学校教員向けの研修プログラムを開発・実施していくことも一つのアイデアであるが、実現に向けてはニーズ調査、人的資源を含めて検討課題が多く時間を要する。
【SD】 SDの3本柱となる「職員研修プログラム」、「スタッフ・ポートフォリオ」「キャリア・アップサポート」のうち、「職員研修プログラム」領域の成果に比べ、他の2つの領域は試行中とはいえ、活動実績の具体像が見えにくいものになっている。	「スタッフ・ポートフォリオ」「キャリア・アップサポート」については、導入から実施まで組織としてベクトルを一致させる必要がある。愛媛大学での導入の効果を検証した上で、他大学において導入に向けて検討する必要があるが、従来の人事制度を変革していくには時間を要する。

【対応済の課題】

評価委員からの意見	理 由
【FD】 スタッフの派遣や活動成果の検証等で生じるコア校の負担をどう克服するのか、この規模の大学・学校に籍をおく特定個人との連携ではなく、組織体としての連携を強化するには何が有効なのか、その方策が明らかではない。	昨年度末にSPODネットワーク規約を改正し、コア校が会長、副会長を担当し、加盟校から監事を選出するなど、規約の整備を行い、加盟校間の組織的連携の強化を図り、負担を平準化した現実的な体制を構築している。
【FD・SD共通】 SPODによる取組と、全国拠点としての取組をどう関連づけるかは、重要な課題と思われる。	SPODネットワークコア運営協議会、教職員能力開発拠点共同利用運営委員会において明確に事業の仕分けが行われている。
【FD・SD共通】 SPOD事業と共同利用拠点事業との仕分け	
【組織運営等】 3年間に亘る連携事業運営のノウハウをどのように継承し、共有化(記録化、資格化等)するかが課題である。	3年間の活動状況の記録は、活動報告書に記載しており、SPOD関係者で共有している。有効活用の方策を考えたい。
【FD・SD共通】 SPOD事業の取組成果だけでなく、ネガティブな面についても敢えて発信することも必要である。	活動報告書では、3年間の全体総括において、事業の成果だけでなく、達成出来なかった点、今後の改善事項等を記載している。
【SD】 SDを受講することによってどのような能力が、いかに向上したか(しなかったか)を測定すること	SDについては、あらかじめ定めた到達目標に対して、受講前と受講後の到達レベルを検証している。
【SD】 何のためにSDを行うのか、目的がやや不鮮明な印象を受ける。	SPODでは、独自にSPOD－SDの定義を定め、SDの目的、意義を明確にしている。
【組織運営等】 他の地域連携ネットワーク(例えば大学コンソーシアム京都)等と各々の持ち味を活かしつつ、相互補完的な提携関係を構築していただくことを提案します。	FDネットワーク代表者会議や他の共同利用拠点(東北、名古屋)との意見交換等を通じて、FD・SDに関する情報収集を行うなど、他の地域ネットワークと連携している。

【対応困難な課題】

評価委員からの意見	理 由
【SD】 SD研修プログラムに参加した職員に対するインセンティブがつけにくいといわれているが、昇給や昇任を含めた待遇面について各加盟校での前向きな検討が望まれる。	職員へのインセンティブは各加盟校で定めるべきものであるため、SPODとして一律に定めることは困難である。すでに一部の大学では、SD研修受講が昇任の条件としていところがある。

 E-mail spod@stu.ehime-u.ac.jp

会場	時間	アクティブ・ラーニングスペース2	M23	M24
1日目 8月23日(火)	13:00 ~ 15:00	FD グラフィック・シラバスの作成方法 佐藤浩章 (愛媛大学)  定員 40名	FD・SD共通 ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミSSIONポリシーの開発と一貫性構築の進め方 小林直人 (愛媛大学) 定員 40名	SD 職場内での職員の能力開発手法①② 秦 敬治 (愛媛大学) 定員 40名
	15:30 ~ 17:30	FD 学習評価の基本 城間祥子 (愛媛大学)  定員 40名	SD 一人ひとりが広報パーソン 河野太志 (愛媛大学) 定員 30名	

●プログラムを受講する方は、必ず受講初日に、全体受付を済ませてください。

全体受付 ☐ 場所: 愛大ミュージアム1階

☐ 時間: 8/23 12:00 ~、8/24 ~ 26 9:00 ~

8月23日(火)、26日(金)に実施する  のプログラムは、愛媛大学FDスキルアップ講座を開放して行うものです。

 ...愛媛大学FDスキルアップ講座  ...連続受講が必須のプログラム

 ...遠隔配信プログラム

会場	時間	アクティブ・ラーニングスペース2	M23	M24	M32	M33	校友会館2階サロン
2日目 8月24日(水)	10:00 ~ 12:00	FD 大人数講義法の基本 (遠隔配信プログラム) 小林直人 (愛媛大学)  ※1 定員 40名	FD・SD共通 教員主導・学生主体の授業の進め方①②③ 中村文子 (ダイナミックヒューマンキャピタル(株)) 定員 30名	FD 授業アンケートと公開授業の効果的な活用方法 佐藤浩章 (愛媛大学) 定員 40名	FD・SD共通 研究室教育を活性化させるコツ 城間祥子、大竹奈津子、谷中恭伸 (愛媛大学)、山内一祥 (佐賀大学) 定員 30名	FD・SD共通 ニーズに合わせた初任者研修作成講座 吉田 博、宮田政徳 (徳島大学) 定員 30名	FD ティーチング・ポートフォリオ更新ワークショップ①②③ 栗田佳代子 (大学評価・学位授与機構) 定員 12名
	13:00 ~ 15:00	SD 職場で使えるグループワーク-効果的な実践手法-①② SPOD次世代リーダー研修1期生 ※若手職員対象 定員 35名		SD スタッフ・ポートフォリオの作成方法①② 大竹奈津子、秋谷恵子、塩出和久 (愛媛大学) 定員 30名	SD 明るい職場づくり-職場のコンプライアンスとハラスメント- 高木健一郎 (香川大学) 定員 40名	FD 教養教育の授業デザイン講座 斎藤隆仁、吉田 博 (徳島大学) 定員 30名	
	15:30 ~ 17:30			FD 小グループ・ペア学習を取り入れた授業デザイン-考え方と進め方- 俣野秀典 (高知大学) 定員 40名	FD・SD共通 はじめてのラーニング・ポートフォリオ 山内一祥 (佐賀大学) 定員 40名		

※1 愛媛大学キャンパスでの受講はできません。

※2 教職員の方々は、見学自由となっております。(申込み不要)

会場	時間	アクティブ・ラーニングスペース2	M23	M24	M32	M33	校友会館2階サロン	共通教育講義棟12番教室
3日目 8月25日(木)	10:00 ~ 12:00	FD 臨床現場における実習評価と学生へのフィードバック 小林直人 (愛媛大学)ほか 定員 40名	FD・SD共通 プレゼンテーションの極意-聴き手を魅了する秘訣とは?-①② 田中省三 (愛媛大学) 定員 40名	FD・SD共通 学習成果をどう測定し、活用するか? 山田剛史 (愛媛大学) 定員 40名	FD・SD共通 職場内人材育成の基本-一人を育てる組織づくり- 佐藤浩章、米澤慎二 (愛媛大学) 定員 40名	FD・SD共通 事例から学ぶ危機管理-東日本大震災の被災から授業開始まで- 阿部光伸(東北文化学園大学)、上甲功治、石川 尚 (愛媛大学) 定員 40名	↓開始時間11:30~ 大学院生・学生 四国キャンパス元気プロジェクト① ランチセッション SPOD加盟校所属の学生 ※2 見学自由	FD・SD共通 障がい学生支援入門 太田琢磨、高橋信行、村上沙耶佳、原田美藤 (愛媛大学) 定員 30名
	13:00 ~ 15:00	FD 何が学生の学びを促進するのか?-授業コンサルテーションの事例から- 城間祥子、大竹奈津子 (愛媛大学) 定員 40名		↓開始時間13:30~ FD・SD共通 トップリーダーセミナー 諸星 裕 (桜美林大学) 定員 100名	FD アクティブラーニングで授業改善-「情報処理」を事例に- 立川 明 (高知大学) 定員 40名	SD 部下の成長を促すためのメンタリングのコツ 久保研二 (広島大学) 定員 40名	FD・SD共通 学生とつくるスキルアップ研修プログラム 西本佳代、藤本佳奈 (香川大学) 定員 20名	
	15:30 ~ 17:30	FD・SD共通 シンポジウム 南加記念ホール 高等教育機関におけるマネジメント-危機管理と情報開示の意義- 諸星 裕 (桜美林大学) 池田輝政 (名城大学) 石橋 晶 (文部科学省) 定員 220名					大学院生・学生 四国キャンパス元気プロジェクト② SPOD加盟校所属の学生 ※2 見学自由	

18:00~20:00 懇親会 会場: 愛媛大学大学会館 ※会費4,000円(事前申込み制 会場受付で支払い)

会場	時間	アクティブ・ラーニングスペース2	M23	M24	M32	M33	校友会館2階サロン
4日目 8月26日(金)	10:00 ~ 12:00	ラウンド・テーブル テーマ: 教員の能力開発 ファシリテーター: 佐藤浩章 (愛媛大学)	ラウンド・テーブル テーマ: 学生支援 ファシリテーター: 野本ひさ (愛媛大学)	ラウンド・テーブル テーマ: 授業改善 ファシリテーター: 山田剛史 (愛媛大学)	ラウンド・テーブル テーマ: 職員の能力開発 ファシリテーター: 秦 敬治 (愛媛大学)	ラウンド・テーブル テーマ: 教職協働 ファシリテーター: 渡邊正則 (愛媛大学)	大学院生・学生 四国キャンパス元気プロジェクト③ SPOD加盟校所属の学生 ※2 見学自由
	13:00 ~ 15:00	FD 高専における学生サポートをどうするか?-クラス経営・保護者対応・情報共有- 坪井泰士 (阿南高専) 定員 40名	FD 大人数講義法の基本 小林直人 (愛媛大学) 定員 40名		SD 大学職員のための企画力養成講座①② 秦 敬治 (愛媛大学) 定員 40名	FD ルーブリック評価入門-考える、つくる、活用する- 俣野秀典 (高知大学) 定員 40名	
	15:30 ~ 17:30	FD 授業の双方向性を高めるクリッカー入門 山内一祥 (佐賀大学) 定員 20名	FD・SD共通 愛媛大学教育企画室オープンオフィス				

お問い合わせはこちらまで!



機械で読み取りますので、筆記用具は 鉛筆かシャープペン を使用してください。
 あてはまる番号を 塗りつぶして ご回答ください。訂正する場合は 消しゴム でよく消してください。

ご協力ありがとうございました。

SPODフォーラム 2010 アンケートフォーム

SPODフォーラム2010にご参加いただき、ありがとうございました。
フォーラム全体について、率直なご意見をお聞かせください。

1. SPODフォーラムについて

SPODフォーラムについてどこで知りましたか？（複数選択可）	SPODホームページ SPODフォーラムチラシ SPOD関係者からの案内	SPODメールマガジン SPOD研修プログラムガイド2010 その他
SPODフォーラムに参加した動機は何ですか？（複数選択可）	自分自身の能力開発のため 組織を超えた人脈づくりのため 上司に参加をすすめられたため	組織の課題を解決するヒントを得るため FDやSDに関する情報収集のため その他

2. SPODフォーラムでの研修成果について

自分に必要な知識やスキルを身につけることができた

そう思う

どちらかといえばそう思う

どちらかといえばそう思わない

そう思わない

所属組織の問題解決に役立つ情報を入手することができた

そう思う

どちらかといえばそう思う

どちらかといえばそう思わない

そう思わない

組織を超えた交流を持つことができた

そう思う

どちらかといえばそう思う

どちらかといえばそう思わない

そう思わない

フォーラムで学んだことをすぐに職場で実践したい

そう思う

どちらかといえばそう思う

どちらかといえばそう思わない

そう思わない

SPODフォーラムは全体的に満足できる内容であった

そう思う

どちらかといえばそう思う

どちらかといえばそう思わない

そう思わない

3. 感想、ご意見、ご要望等

SPODフォーラムに参加して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

SPOD フォーラムをよりよいものとするために改善点があれば、具体的にお書き下さい。また、開催日程や会場等についてご要望がございましたら、あわせてお書き下さい。	
SPOD フォーラムで開講してほしい研修プログラムがあれば、具体的の内容をお書き下さい。	
SPOD の事業全般についてご意見やご要望があれば、自由にお書き下さい。	

4. 参加者ご自身について

所属先	大学 高等専門学校	短期大学 その他
所属先の設置者	国（国立大学法人） 学校法人	地方自治体（公立大学法人を含む） その他
所属先の所在地	□□	
職種	教員 学生	職員 その他
あなたは F D または S D の実施担当者ですか？	F D の実施担当者 F D と S D 両方の実施担当者	S D の実施担当者 F D や S D の実施担当者ではない

他フォーラム派遣者からの意見について

SPODでは、毎年、4日間のSPODフォーラムを開催してきました。その内容について高く評価されているところですが、企画・運営等に携わっている各SPOD加盟校のFD／SD／事務担当者の中には、SPODフォーラムしか知らない方もいると思われます。

そこで、以下の他のネットワーク等が行っているフォーラムにSPOD加盟校のFD／SD／事務担当者を派遣し、SPODフォーラム2010のよかった点、学ぶべき点、活かせる点について意見を提出してもらいました。

以下が、そのまとめとなります。

派遣日	派遣先	派遣者数
H23.3.5-6	第16回FDフォーラム 大学コンソーシアム京都	2名
H23.3.12	大学教育改革in東海2011 FD・SDコンソーシアム名古屋	7名
H23.3.17-18	第17回大学教育研究フォーラム 京都大学	3名
計		12名

【SPODフォーラムのよい点】

- 参加型の研修で、研修生全員で考え、全員で作り上げることの達成感があった。
- SPODで行っているグループワークや相互交流は今後もおこなってほしい。
- 初年次教育については、SPODが進んでいると感じた。
- 〇〇〇〇大学の立場からは、教員数から考えて独自にFDを組織して実践することは不可能に近いと思われる。充実したFDの実践がなされるためには、組織的なFD活動に頼らざるを得ないところがあることから、SPODの活動の重要性を改めて痛感した。
- SPODフォーラムは、到達目標を設定した多数の講座で構成されており、必要なスキルを身につけるプログラムを選ぶことができる。
- 交流会の運営も含め運営の気配りが行き届いていて、雰囲気は温かい。
- 小規模校や短期大学、専門学校に対応した研修を準備し、今後もよりきめ細かい研修を工夫していく姿勢がみられる。
- 地元にながら国内外を含め、最先端の情報も提供されている。最先端の情報を基に改革・改善を実現するには多くの困難を伴う学校も少なくないが、恵まれた条件の学校のみが先に走るような感じが無い。
- 会員校は受講料がいらぬ。

【SPODフォーラムへの改善・検討要望事項】

	事項	対応案
1	問題点をグループで討議し、解決の方法を考えるプログラムを検討してはどうか？	今回のフォーラムでは、5テーマに分かれた、ラウンド・テーブルを実施することとしている。フォーラム申込時に、討論したい問題点等をあげてもらえれば、その解決法についても、討議できる。
2	ラウンドテーブルを取り入れて、参加者と演者との活発な討論、情報交換や交流があるほうがいいと感じた。	
3	全国的に先鋭的な企画や実践を今後プログラムの中に取り組んだらいいと思う。	毎回、業界第一人者を招き、最新の動向、情報を発信することができるトップリーダーセミナーやシンポジウムを実施している。また、今年は、専門分野対応(医療系・高専系)の新たなプログラムも用意し、常に実践的なプログラムを用意するよう心掛けている。
4	専門外の者から見ても、当該領域の研究の動向を垣間見ることができるプログラムを用意してはどうか？ SPODが既に実施している実践技術の習得と研究的交流の双方がうまくリンクしていくことで教員の授業等の能力が改善されていくのではないかと思います。	SPODフォーラムは実践力を重視したプログラムを提供しているところである。今後、その検証も含め、研究的要素の高いプログラムを導入する必要があるか、検討していく。
5	多くのポスターセッションがあり、細かな質問を直接聞けるため参考になることが多かった。SPODフォーラムには四国外からも多数参加しており、ポスターセッションの場で細かな情報交換ができることは貴重な機会となる。	昨年度、展示スペースを用意し、各加盟校のSPODにおける成果物の展示等ができるようにしているが、あまり利用されなかった。展示スペースのあり方について、内容等含め再検討していく。
6	もう少し他の機関からの講師・発表者を入れてみてはどうかと思いました。	SPODでは基本的に、FD・SDともに、持続的なプログラム実施のために、SPOD加盟校内での講師の養成に努めているところである。しかし、他機関からの講師・発表者というものも、新鮮で有効であると思われる。今後、SPOD運営予算の範囲内で、可能であれば他機関からの講師招聘も検討したい。
7	発表論文集と付箋紙(センターオリジナル7.5cm×7.5cm)をオリジナル紙袋に入れて1,000円を徴収。さりげなく広報にも役立っていると感じた。SPODフォーラムにおいては、構成大学の広報関係資料(本学であれば、Lineや愛U(ラブユー)など)をいれると良いのではないか。	事業評価委員の先生からも、マスコミ等を利用したSPODの知名度UPを提案していただいたところであり、広報のあり方について、検討していくこととする。また、受付時に配布する資料についても、各加盟校に照会をかけることとする。
8	図書館系のプログラムを受講したところ、図書館内のフロアスペースで開催され、いつもと違った雰囲気を受講できた。愛媛大学でも、ラウンジ等をうまく利用できないか？	今後検討していく。
9	パネリスト形式であれば、4名程度から聞くことができ、さらに多くの事例を知ることができるため、SPODフォーラムのシンポジウムをパネリスト形式で行ってはどうか？	今年度のシンポジウムは、SPOD関係者と外部講師の対談という形式ではなく、3名のシンポジスト全てが外部講師、そのうち1名にファシリテータとして、話を進めてもらうというこれまでとは違う新しいスタイルとなっている。毎回同じスタイルで実施するのではなく、パネリスト形式も含め、毎年検討していく。
10	シンポジウムをパネリスト形式で行う場合、加盟校からも最低1名は、入れることが良いと思いました。加盟校から学ぶということ、加盟校の事例を紹介することも大切かと思います。SPODシンポジウム2010でも、徳島大学や高知工科大学の事例が聞けたのが、良かったというアンケートのコメントにもありました。	今年度は既に、シンポジウムの内容・講師ともに決定しているので、ご意見は今後の参考にさせていただく。
11	シンポジウムのパネリストには、現場の人を呼ぶことです。身近な方の話のほうが、聞いていて実感がありました。シンポジウムは、講演会的な趣旨はあるかと思いますが、すぐに役立つことをうたっているSPODフォーラムであれば、検討の余地はあるかと思いました。	

展示スペース等の設置について（案）

1. 目 的：「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（S P O D）」におけるこれまでの取組や、S P O D加盟校の取組の成果物などの展示や、資料を配付することにより、広く取組を周知する。
2. 場 所：愛大ミューズ1階アクティブ・ラーニングスペース1
3. 実施期間：8月23日（火）～8月26日（金）
4. 実施方法：S P O Dの取組による成果物の展示、及びS P O D紹介DVDの放映等を行う。
また、S P O D加盟校からも取組の成果物や配付資料等を事前に送付してもらい、展示等を行う。
5. 募集方法：S P O D事務局より、取組の成果物の展示・配付希望の調査を行う（8/3〆切）。
※募集が多数の場合は、会場の都合でお断りすることもある。
6. 展示種別：教材、報告書、パンフレット、リーフレット、取組紹介DVDなど
7. 展示等準備：S P O Dの取組紹介の展示等についてはS P O D事務局が準備を行う。また、各加盟校の展示物等も、S P O D事務局にて行う。なお、展示物等は、着払いでS P O D事務局に送付する。
8. 展示物の返却：各加盟校から提供いただいた展示物等は、希望があればS P O Dフォーラム終了後、返送する。
9. その他：展示会場には、スタッフを1名配置する。

平成 23 年度 S P O D ネットワークコア運営協議会 F D 専門部会（第 1 回）議事概要

日 時：平成 23 年 6 月 8 日（水） 16：40～17：30

場 所：愛媛大学城北キャンパス校友会館 2 階ミーティングルーム

出席者：徳島大学 宮田准教授、吉田助教

香川大学 佐藤講師

高知大学 塩崎教授、俣野講師

愛媛大学 小林教授、佐藤准教授、山田准教授、渡邊教育企画課長、

陪席者：愛媛大学 城間助教、長野教育企画課教育企画チームリーダー、渡部教育企画課事務補佐員

議題等：

1. 正副部会長の選出について

事務局から、資料 1-1～2 に基づき、F D 専門部会要項第 4 条より、正副部会長を選出する必要があることについて説明があり、部会長に愛媛大学の佐藤准教授を推薦し、了承された。続いて、佐藤部会長から、副部会長の選出について、F D 専門部会要項第 4 条第 4 項より、部会長の所属校を除くコア校から、部会長が指名することについて説明があり、徳島大学の宮田准教授を推薦し、了承された。

2. その他

（1）部会長から、F D ニーズアンケートのデータ分析方法について、説明があった。なお、データ分析は事務局が中心に行うが、部分的には各コア校に協力していただくよう依頼があった。

（2）小林教授から、事業評価委員としてのコメントをいただき、続いて、事業評価委員からの指摘事項に対する、意見交換を行った。部会長から、今月中に各校で意見をまとめて、事務局にいただくよう依頼があった。

（3）部会長から、来年度以降の S P O D フォーラムの開催地についての提案があり、意見交換を行った。まずは、愛媛以外での開催も視野に入れ、各校及び各県で検討を行うこととした。

（4）塩崎教授から、組織の評価や教育効果の検証方法について提案があり、意見交換を行った。個々の変化以上に、組織としての変化を評価したいということで、まずは、加盟校へのインタビュー調査等で、情報収集を行うこととした。今後は、それらの情報をもとにフォーマットを作り、評価モデルの作成等につなげていくことを確認した。

平成23年度SPODネットワークコア運営協議会SD専門部会(第1回)議事概要

日 時:平成23年6月8日(水)16:40~17:30

場 所:愛媛大学城北キャンパス校友会館2階サロン

出席者:徳島大学 槌谷学務部教育支援課総務・企画係長

香川大学 森田給与福利グループリーダー、高嶋学務グループサブリーダー

高知大学 中澤人事課人事グループ主任、井上学務課総合教育センター事務係長

愛媛大学 秦准教授、米澤教育学生支援部次長、吉田人事課長、秋谷人事課副課長、
塩出人事課人材育成チームリーダー、

陪席者:愛媛大学 山内教育企画課員、岸岡教育企画課員、戸田教育企画課員、岩谷人事課員

議題等:

1. 正副部会長の選出について

塩出チームリーダーから、資料1-1~2に基づき、SD専門部会要項第4条より、正副部会長を選出する必要があることについて説明があり、部会長に愛媛大学の秦准教授を推薦し、了承された。続いて、秦部会長から、副部会長の選出について、SD専門部会要項第4条第4項より、部会長の所属校を除くコア校から、部会長が指名することについて説明があり、高知大学の近田人事課長が推薦され、了承された。

2. 平成23年度のSPOD-SDプログラムの実施予定について

吉田人事課長から、資料2に基づき、平成23年度の研修予定について説明があり、各コア校で実施の際には協力していただくよう依頼があった。

3. その他

(1) 米澤次長より、SPOD-SDCについて、秦准教授と米澤次長がその基準を満たしており、次回のコア運営協議会においてこの2名を推薦する旨説明があり、了承された。また、SPOD-SDCを増やしていくことが将来的にSDプログラムを持続的に内部講師で実施していくことにつながるとして、各大学でもSPOD-SDCを目指した職員の養成をしていたと依頼があった。

(2) 米澤次長より、これまで実施されたSDプログラムでのアンケート集計結果から、社会連携系などの専門職養成プログラムへのニーズが高いため、新たな専門職養成プログラムの開発をしていくとの説明があった。その際にはできるだけ多くの参加を得るため、教職員能力開発拠点の予算が確定する11月以降でプログラム開発を検討したいとの説明があった。

SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター (SPOD-SDC) の認定について

1. 認定対象者

- (1) 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長 准教授 秦 敬治
- (2) 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 特任助教 大竹 奈津子
- (3) 愛媛大学教育学生支援部 次長 米澤 慎二

2. 認定理由

申請のあった3名はSPOD事業開始時からSPOD-SDのプログラム開発及び実施の中心的な役割を果たしてきた。

秦、大竹はSPOD-SDプログラムの開発手法に職業教育カリキュラムの開発手法であるCUDBAS手法を職員向けに変更して使用するなど、SDプログラムの開発段階から最終的な研修プログラムの作成まで行ってきた。

また、秦、大竹、米澤の3名は9回実施したSDのプログラム開発合宿研修のすべてに講師として参加し、SDプログラムの開発手法などを熟知している。

さらに、3名はSPODで開発したスタッフ・ポートフォリオの普及に向け、SPODフォーラムをはじめ、各大学で説明会やSD研修会を実施している。現在、愛媛大学でスタッフ・ポートフォリオを導入しているが、メンターとしてスタッフ・ポートフォリオ導入の実践を行っている。

なお、3名は愛媛大学人事課と協働して、職員人材育成ビジョンの必要性について講演しているほか、次世代リーダー養成研修のプログラム開発から実施まで協働するとともに、講師を務めている。

以上のとおり、秦、大竹、米澤の3名はSPODにおけるSDCの名称付与基準を満たしているため、SPOD-SDCとして認定するものである。

3. SPOD-SDC 認定の参考書類

- ・ティーチング・ポートフォリオ (SD 研修会実績) ※秦、大竹
- ・愛媛大学スタッフ・ポートフォリオ ※米澤

平成 23 年 3 月 10 日
ネットワークコア運営協議会決定

**SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター
の名称付与基準について**

【Staff Development Coordinator】

SPODにおけるスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（以下「SPOD-SDC」という）の名称付与基準について、以下のように定める。

SPOD-SDCの名称は、大学人、社会人としての基礎力養成プログラムの全科目を修了し、単位認定を受けた職員又はSD専門部会が同等の能力があると認めた者とし、同等の能力とは次のとおりとする。

1. SPOD-SD（又は自大学におけるSD）講師となることができる。
2. 職員のキャリアプランニングをサポートすることができる。
3. 大学等における職員人材育成ビジョンの構築の支援ができる。
4. 大学等におけるSDプログラムの企画・立案ができる。
5. スタッフ・ポートフォリオを作成でき、その有益性を説明することができる。

実施日

【学校名】

【プログラム名】

平成23年度 SPOD講師派遣プログラムアンケート（案）

機械で読み取りますので、あてはまる番号を 塗りつぶして ご回答ください。
訂正する場合は 消しゴム でよく消してください。

1. 参加者ご自身について

職種

- ① 教員 ② 職員 ③ 学生 ④ その他（ ）

2. このセミナーについて

- ④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② どちらかといえばそう思わない ① そう思わない

設 問		回 答			
(1)	研修目的や内容についてある程度知った上で参加した	④	③	②	①
(2)	研修は自分の業務に生かせる内容だった	④	③	②	①
(3)	研修の到達目標が明確に示されていた	④	③	②	①
(4)	研修はわかりやすい順序ですすめられた	④	③	②	①
(5)	講師の言動は学習意欲を高めた	④	③	②	①
(6)	自分に必要な知識やスキルを身につけることができた	④	③	②	①
(7)	受講したことによって業務への取り組み方が改善されると思う	④	③	②	①
(8)	研修は全体的に満足できるものだった	④	③	②	①

3. このセミナーを受講して良かったと思われる点を、具体的にお書き下さい。

4. このセミナーをよりよいものとするために改善すべき点があれば、具体的にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

【学校名】

実施日 【プログラム名】

平成23年度 SPOD講師派遣事業についてのアンケート（案）

記入者名：_____ ※担当に○をつけて下さい。：FD・SD・事務

SPOD講師派遣事業についてお尋ねします。

1. a) 研修プログラムへの参加者は全員で何名でしたか？ _____（_____）名
うち、教員：（_____）名 職員：（_____）名 その他：（_____）名
b) a)でお尋ねした全参加者のうち、学外からの参加者は何名でしたか？ _____（_____）名
うち、教員：（_____）名 職員：（_____）名 その他：（_____）名

2. SPOD講師派遣事業を来年も継続したらいいと思いますか？ 番号（_____）

④ そう思う ③ どちらかといえばそう思う ② どちらかといえばそう思わない ① そう思わない

3. SPOD講師派遣事業により、学内でどのような成果や変化がありましたか？
例)FD委員会が設置された、職員による定期的な勉強会が始まった... など。

4. SPOD講師派遣事業への要望があれば、具体的にお書き下さい。

5. SPOD全体への要望があれば、具体的にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

愛媛大学における「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」及び「教職員能力開発拠点」
事業に係る研修生受入要項（改定案）

平成21年10月14日
規則第125号

（趣旨）

第1 この要項は、「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク」（Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education）（以下「SPOD」という。）事業及び「教職員能力開発拠点」事業を推進するため、大学教育改革等に係る専門知識及び技術・技能を修得させることを目的として、愛媛大学（以下「本学」という。）に研修生を受け入れる場合の取扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

（受入対象等）

第2 研修生として受入れすることができる者は、大学、短期大学、高等専門学校（以下「大学等」という。）の学生、教職員等とする。

2 研修生の受入期間は、原則として1年以内とする。ただし、学長が必要があると認めた場合は、受入期間を更新することができる。

（受入手続等）

第3 研修生の受入れにあたっては、当該研修生を受け入れる教員（以下「受入責任者」という。）が~~SPOD事業に係る研修生の~~受入承認申請書（別紙様式1）により、所属する大学等の長の推薦を得た上で、本学学長に申請し、承認を得るものとする。

2 別紙様式1に記載する研修プログラムは、次に掲げる~~SPODが行う次の~~事業に関する内容のうちから構成するものとする。

（1）FD、SD及びTAD事業

（2）その他、大学教育改革等に係る専門知識及び技術・技能の修得に必要な事業

3 研修生が所定の要件を満たして研修プログラムを修了した場合は、修了証書（別紙様式2）を授与する。

（受入事項の変更等）

第4 研修生は、受入期間の更新、受入事項の変更又は研修の中止（以下「受入事項の変更等」という。）をするときは、~~SPOD事業に係る研修生の~~受入事項変更承認申請書（別紙様式3）により、受入責任者の確認及び所属する大学等の長の下承を得た上で、本学学長に申請し、承認を得るものとする。

2 研修生は、前項の承認を得たときは、所属する大学等の長に受入事項の変更等を届け出るものとする。

（受入条件等）

第5 研修生の待遇、受入条件は、次のとおりとする。

（1）研修料は、徴収しない。

（2）給与、手当等は支給しない。

（3）研修プログラム実施に伴う経費については、本学が負担するものを除き自己負担とする。

（4）研修生が受入期間中に業務上の災害若しくは通勤による災害にあった場合、又は故意若しくは重大な過失により、本学若しくは第三者に損害を与えた場合、その責任は当該研修生が負うものとする。

（5）研修生は、研修を開始する前に次の手続きを行わなければならない。

ア 大学等の学生

学生教育研究災害傷害保険及びインターンシップ・教職資格活動等賠償責任保険に加入する

こと。

イ 大学等の教職員等

所属する大学等において、労災保険等の適用について確認の上、必要に応じ任意保険に加入すること。

(施設等の使用)

第6 研修生には、本学の教育、研究等に支障のない範囲で、研修に必要となる本学の施設、設備等を使用させることができる。

(研修生証の交付)

第7 研修生には、研修生証（別紙様式4）を交付するものとする。

(諸規則等の遵守)

第8 研修生は、本学の諸規則等を遵守しなければならない。

(事務)

第9 研修生の受入れに関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10 この要項に定めるもののほか、研修生の受入れに関し必要な事項は、学長が定める。

附 則

この要項は、平成21年10月14日から施行する。――

附 則

この要項は、平成23年 月 日から施行する。

別紙様式1（第3第1項関係）

~~SPOD事業に係る研修生の~~受入承認申請書

平成 年 月 日

愛媛大学長 殿

受入責任者
所属・職・氏名 印

下記のとおり，所属長からの推薦に基づき，研修生として受け入れたいので申請します。

記

(フリガナ) 氏 名		性別		生年月日	年 月 日
所属大学(機関) 名 職名 (学年)					
受 入 期 間	平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日				
研 修 題 目					
研 修 プ ロ グ ラ ム					
上記のとおり推薦します。 平成 年 月 日 所属大学（機関）の長 印					

申請のとおり承認します。 平成 年 月 日 愛媛大学長 印	
-------------------------------------	--

別紙様式2（第3第3項関係）

修 了 証 書

○ ○ ○ ○ 大学

○ ○ ○ ○ 殿

あなたは（四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD））
（教職員能力開発拠点）が実施する所定の研修プログラムを修了したことをここに証します

今後の大学教育改革を推進するうえで、この研修の成果が生かされることを期待します。

平成 年 月 日

~~四国地区大学教職員能力開発ネットワーク代表校~~

愛 媛 大 学 長

○ ○ ○ ○

(修了証書裏面)

修了した研修プログラム内容等

受入期間		平成 年 月 日 ～ 平成 年 月 日
研修題目		
研修プログラムの内容		

別紙様式 3 (第 4 第 1 項関係)

~~SPOD事業に係る研修生の受入事項変更承認申請書~~

平成 年 月 日

愛媛大学長 殿

研修生氏名

印

下記のとおり、所属長の下承を得ていますので、受入事項の変更等を申請します。

記

受入責任者 職・氏名		確認印
変更事項等		
上記の受入事項の変更等を了承します。 平成 年 月 日 所属大学（機関）の長 印		

申請のとおり承認します。

平成 年 月 日

愛媛大学長 印

別紙様式 4 (第 6 関係)

写真	愛媛大学	(SPOD事業) (教職員能力開発拠点事業)	研修生証
	研修生		
	氏 名		
受入責任者			
氏 名			
有効期限 平成 年 月 日			
上記の者は、本学の (SPOD事業) (教職員能力開発拠点事業) に係る 研修生であることを証明する。			
平成 年 月 日			
愛媛大学長			印

(名刺版とする。)

次世代リーダー養成研修実施要項

1. 目 的

将来、事務職員がトップリーダー（役員）や高等教育界のリーダーとして、大学等の経営を担うために必要な技能（実践力）・知識（理論）・態度を段階的に養成する。

2. 達成目標

【知識（理論）】

大学等の経営に必要となる

- ・高等教育に関する知識・理論（高等教育論、高等教育史、高等教育政策・行政、教育関係法、教育財政）を応用することができる。
- ・経営管理・戦略、財政管理・戦略、危機管理に関する知識・理論を応用することができる。
- ・リーダーシップに関する知識・理論を応用することができる。

【技能（実践力）】

上記の知識を利用して、大学等の大局的な運営に必要となる

- ・情報収集・分析を行うことができる。
- ・企画策定・提案を行うことができる。
- ・判断を行うことができる。
- ・折衝・調整を行うことができる。
- ・後継者育成を行うことができる。

【態度】

- ・学生を中心とした教育活動に積極的に働きかけることができる。
- ・立場の違う構成員と協力して働くことができる。
- ・地域や高等教育界のニーズに応えることができる。
- ・リーダーとしてふさわしい言動をとることができる。

3. 開催日（期間）

（第2回） 平成23年8月4日（木）～6日（土） （愛媛大学，聖カタリナ大学）

※次世代リーダー養成研修のプログラムは、2年間で2泊3日×8回実施する。

※平成23年度の開催実績及び予定

（第1回） 平成23年 6月 9日（木）～11日（土）（高松テルサ）

（第3回） 平成23年11月24日（木）～26日（土）（徳島大学）

（第4回） 平成24年 1月19日（木）～21日（土）（高知大学）

4. 場 所

愛媛県松山市道後樋又10番13号 愛媛大学 本部（第2，第4会議室）

愛媛県松山市北条660 カタリナ大学 第1会議室 他

5. 日 程

別紙「次世代リーダー養成研修（第2回）日程表」のとおり

6. 対象者

以下の条件を満たす者。

- ・40歳以下を原則とする。
 - ・各機関の長が推薦する者。
 - ・SPOD加盟校の職員。
 - ・スタッフ・ポートフォリオを作成し、受講申し込み時に提出できる者。
- ※スタッフ・ポートフォリオ様式、記入要領等を送付しますので、ご参照ください。
- ・専門職養成プログラム（専門教育・共通教育）のレベルⅡを修了した者、または、それと同等の能力があると認められた者。
- ※各機関においては受講者を選抜する段階で、面接等を実施してください。

7. 募集人員

8名程度（各機関より複数受講を希望する場合は優先順位を付す）

8. 講 師

広島大学高等研究開発センター	教授	山本真一
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	准教授	秦 敬治
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	准教授	山田剛史
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室	特任助教	大竹奈津子
愛媛大学人事課	課長	吉田一恵
愛媛大学教育学生支援部	次長	米澤慎二 他

9. 修了要件

- ・全日程の9割以上出席。
- ・全ての課題（レポート、プレゼンテーション、ディスカッション、実践等）をこなす、合格すること。
- ・最終口頭試問で合格すること。

※修了後は、SPODのSD講師に登録すること。

10. 主 催

主担当：四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）事務局

協力校：高知大学

次世代リーダー養成研修（第2回）日程表

場所：8月4日・5日：愛媛大学
8月6日：聖カタリナ大学

時間	(1 日目) 8 月 4 日 (木)		(2 日目) 8 月 5 日 (金)	
	1 期 生	2 期 生	1 期 生	2 期 生
9:00			【第 4 会議室】 「SPODフォーラム プログラム準備」 講師：大竹奈津子 吉田一恵 米澤愼二	【第 2 会議室】 「S D 演習」 講師：秦 敬治
9:30	受付			
10:00	愛媛大学本部【第 2 会議室】			
	開講式 挨拶：愛媛大学 上甲克和			
11:00	【第 4 会議室】 「SPODフォーラム プログラム準備」	【第 2 会議室】 「課題プレゼン テーション」 講師：秦 敬治 大竹奈津子 吉田一恵 米澤愼二		
12:00	昼食		昼食	
13:00	【第 4 会議室】 「SPODフォーラム プログラム準備」	【第 2 会議室】 「課題プレゼン テーション」	【第 2 会議室】 「 高等教育IR 」 講師 ： 山田剛史	
14:00		【第 2 会議室】 「高等教育政策論」		
15:00	「プロジェクト企画 進捗報告」 講師：秦 敬治 大竹奈津子 吉田一恵 米澤愼二	講師：山本眞一	【第 4 会議室】 「SPODフォーラム プログラム準備」 講師：大竹奈津子 吉田一恵 米澤愼二	【第 2 会議室】 「課題プレゼン テーション」 講師：山田剛史
16:00				
17:00				
18:30	懇親会 にぎたつ会館			

時間	(3日目) 8月6日 (土)	
9:00	【聖カタリナ大学・第1会議室】 「1期生によるSPODフォーラム プログラム講義と講評」 講師：秦 敬治 大竹奈津子 吉田一恵 米澤慎二	
11:00		
12:00	昼食	
13:00	聖カタリナ大学 見学	
14:00	【聖カタリナ大学・第1会議室】 「1期生によるSPODフォーラム プログラム講義と講評」	
15:00	閉講式	
16:00	終了 【解散】	

(注) 都合により、時間を変更する場合があります。